



江戸東京野菜 かわいい畑へ、

ご案内



●西ゾーン:「綱島家」の裏庭、
「八王子千人同心組頭の家」の奥



江戸から東京にいたる歴史の中で、市中や近郊で栽培され、江戸・東京市民の食生活を支えてきた野菜たちです。現在も地域の特産品として、江戸東京たてももの園と小金井市との連携事業として育てています。



質問：かわいい畑で咲く花、なあに？

答えは、かわいい畑で



👉 千住一本ネギ

江戸が徳川家康に開かれたところに、開墾された畑に根付いたのが「ネギ」。千住で根付いた、関西生まれの江戸育ちのネギです。

👉 お花の名前をお答えください👉

唐菜(唐人菜)、ちりめん白菜などと呼ばれた野菜。昭和40年(1965)代になり江戸川区、葛飾区、足立区で盛んに作られました。



👉 お花の名前をお答えください

江戸時代初期にはすでに西多摩地方でも栽培されていました。西多摩地方ではこの食用なばなを「」または「」と呼んでいました。耐寒性に優れ、天明の大飢饉(1782年 - 1788年)及び天保の大飢饉(1833年 - 1839年)の際に人々を飢餓から救ったという野菜です。

👉 お花の名前をお答えください👉

大正時代まで多摩地区、小平周辺で「東京長カブ」という名前で売り買いされていました。姿がかわいいカブです。



👉 亀戸大根

文久年間(1860~1864)の頃から昭和初期まで、亀戸香取神社周辺で栽培されていました。

